

平成25年度

笠岡市施策評価報告書

平成25年10月

笠岡市施策評価委員会

笠岡市の施策評価の実施にあたって、施策評価委員会による評価を行い、その結果を報告書としてとりまとめましたので、報告します。

笠岡市長 三 島 紀 元 殿

平成25年10月2日

笠岡市施策評価委員会
委員長 小 林 正 和

1 笠岡市の行政評価について

笠岡市では、行政運営の資源（人・物・資本）を有効に活用していくため、行政が進める政策を実現するための施策や事務事業について、指標等を用いて評価し、その結果を改善に結び付けていく行政評価（施策評価、事務事業評価）を実施しています。

この評価サイクルを確立し、継続的に評価検証を進めていくことで、行政活動の透明性が高まり、結果を公表することで説明責任が果たされ、市民の満足度がより高まり、行政運営の質的な向上が期待されます。

2 施策評価について

平成13年度から事務事業評価が実施され、平成19年度からは施策評価を導入し、総合計画とも連携した新たな仕組みづくりが進められました。

こうした中で、施策評価による施策の重点化、施策体系の見直し等を踏まえ、平成22年度を初年度とする第6次笠岡市総合計画が策定されました。

平成23年度からは、目指すべき都市像の実現に向け、総合計画の進捗状況をチェックするとともに、各施策の方針や今後の展開を明確にしていくため、施策評価委員会を設置し、施策評価を実施しています。

3 施策評価委員会の設置について

(1) 目的

施策の実施担当部局が行った自己評価を、有識者及び市民の代表者と行政組織の職員により、総合計画の進行状況を市民の目線で評価していただくことで、施策評価の妥当性・透明性を確保し、信頼性を高めることが目的とされています。

(2) 委員構成

施策評価に対する共通認識を深めるため、外部委員と内部委員の混合で構成します。（合計10名）

外部委員：総合計画審議会の会長、副会長、その他の委員3名（計5名）

内部委員：政策部長、庁内選出4名（計5名）

委員名簿は別紙のとおり

4 評価対象施策について

施策評価は、第6次笠岡市総合計画に計上されたすべての施策について、評価対象とされています。

○ずっと住み続けたいまち：	1 施策	
○快適で安全なまちづくり：	14 施策	
○心豊かな人づくり：	6 施策	
○安心して暮らせるまちづくり：	9 施策	
○活気あるまちづくり：	7 施策	
○人と人がつながるまちづくり：	2 施策	
○計画実現に向けた取組：	11 項目	計50 施策・項目

5 評価の方法等について

(1) 評価の方法

① 施策実施担当部局が作成した施策評価シート及び関係資料に基づく書面評価と、委員会でのヒアリングを実施しました。

② 評価の視点

施策評価の仕組みをより信頼性の高いものとするため、

- ・指標の達成状況から見た現状分析が妥当であるか
- ・施策を構成する事業の進行状況の現状認識が妥当であるか
- ・これらを踏まえた改善策が適切に方向付けされているか
- ・総合評価としての認識が妥当であるか

といった視点で評価を行いました。

③ 委員会の開催予定

日 時	内 容
8月 6日 (火)	第1次施策評価委員会 評価方法及び進め方等の確認、ヒアリング実施 施策の選定
8月23日 (金)	第2次施策評価委員会 (1日目) 施策評価シートヒアリング
8月26日 (月)	第2次施策評価委員会 (2日目) 施策評価シートヒアリング
8月28日 (水)	第2次施策評価委員会 (3日目) 施策評価シートヒアリング これまでの委員会を踏まえての協議・まとめ

(2) 評価の結果

① 総評

委員会としては、

A：計画どおり進行している。

B：おおむね計画どおり進行している。

C：計画より一部遅れている。

D：計画より遅れている。

の4段階で評価を行いました。

ヒアリングした施策は16施策・項目中、A評価が0、B評価が12、C評価が4、D評価が0であり、ヒアリングをしなかった施策は書面だけで行い、34施策・項目中、A評価が3、B評価が31、C評価が0、D評価が0となりました。この結果、全50施策・項目中、A評価が3、B評価が43、C評価が4、D評価が0となりました。

(評価結果一覧表は別紙のとおり)

今回は、昨年の評価シートを大幅に変えましたが、かなり見やすく整理ができやすいものになり、さらにヒアリングでの事業説明担当者もポイントをつかんでの報告で、理解がしやすかったように考えます。しかし、施策評価シートの書き方で、平成24年度に実施した事業があるにも関わらず、書かれていない事業がありました。各年度ごとに新規に実施した事業は、できる限り記入をしていただきたいと思います。

各施策に対する意見等はそれぞれの評価シートに記載のとおりで、計画の進行状況はA評価、B評価、C評価とも昨年と全く同じ数となり、順調に進んでいるものと考えます。しかしながら、A評価の内2項目が同じ、B評価の内42項目が同じ、C評価も4項目が全部同じと固定化の傾向が見られます。今後は少しでも上の評価に改善できるように事業を実施していただきたいと思います。

しかし、このように同じ評価が固定化するということは、事業実施の側だけでなく、評価する委員側にも甘く評価する「寛大化傾向」や、4段階のうちBかCに集中する「中央集中化傾向」が働いたことも原因の一つとしてあるのではないのでしょうか。今後の評価方法を少し検討する必要があるかと考えます。

また、今回のヒアリングをした施策は、昨年度の総合評価Cや委員が聞いてみたい施策を中心に選んで実施しましたが、やはり問題がある施策が多いように感じました。特にC評価の施策は昨年と同じで、問題がある事業だと考えられます。

②改善を望む項目等

【評価シート】

シートの作成にあたって

1) 年度ごとに実施した事業を書くようになっているが、書かれていなかった事業があること

【評価の方法】

評価にあたっては、

- 1) 昨年と比べてほとんどの施策で同じ評価となり固定化していること
- 2) 自己評価が寛大化傾向や中央集中化傾向にあり、多くはB評価になっていること

等の問題点が見受けられたので、次回は事務局によりこれらの点の改善を徹底していただき、円滑な評価が実施できることを期待します。